

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①確かな学力の向上(基礎学力・技術・技能の定着、魅力ある教育課程編成の実現) ②生涯にわたる自分づくり(キャリア教育・シチズンシップ教育の充実) ③命や人権を守る(命の授業・人権教育・安全教育の実践)	○新学習指導要領に基づいた教育課程を具体的な時間割等に落とし込み、完成年度までの道筋をたてる。(①) ・新教育課程に合わせて、実習の改善の取組を継続し、カリキュラムの魅力化を図る。(①②③) ○生徒の進路目標を明確化し学力の向上を図る。(②) ・教育のICT化を推進する。(①②③)	・学校目標に対応した教育課程編成の実施準備をする。(①) ・教科代表者会議を活用し、新教育課程に合わせた、具体的な授業内容の検討を行う。(①) ・ICT活用のための新しい技術を取り入れながら、不断の授業改善に取り組む。(①) ・外部の知見を取り入れた授業展開を実施する。(②③)	・新教育課程実施のための準備ができたか。(①) ・新教育課程に合わせた授業内容や展開について十分に協議できたか。(①) ・ICTを取入れた指導と評価を確立できたか。(①) ・どんな知見を取り入れ、そのことを実践した授業で、教育効果がどのように高まったか。(②③)					
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒指導・支援の充実(規範意識の定着、教育相談・部活動の活性化) ②相互理解の促進(インクルーシブ教育の推進)	○社会マナーの定着と規範意識の高揚を目指す。(①) ○課題を抱える生徒の支援のために教育相談会議を活用し、情報共有を行い迅速で丁寧な対応を行う。(①) ・行事や部活動に主体的に取り組み、健康で安全安心な学校生活を送ることができるよう支援する。(②)	・登校指導等の体制を確立し、生徒への意識付けを強化する。(①) ・学習や生活に課題を抱える生徒を全体で支援するため定期的な教育相談会議を行い、教員間での情報共有を行う。(①) ・生徒会を中心に行事や部活動の活性化を図り、生徒同士の人間力を高める。(②)	・遅刻数や服装の乱れが減少したか。近隣の評価がどう変化したか。(①) ・生徒の課題を職員間で共有し、課題を解決することができたか。(①) ・生徒会行事、部活動への生徒参加数が増え、活動に取り組む意欲は高まったか。(②)					
3 進路指導・支援	①進路指導・支援の充実(進路ガイダンス・インターンシップ・職業教育等の充実) ②社会性の育成(コミュニケ	○生徒が「生涯にわたる自分づくり」に主体的に取り組むよう、進路Gと総合技術科Gによるコラボ支援を行う。(①) ・外部講師を活用し、社会の	・グループと学年が連携して計画的な進路支援を行い、生徒が自らの目標を明確に持ち、進路を考えるよう支援する。(①) ・外部講師によるガイダンス	・学校組織が相互に連携することにより進路選択のミスマッチを防ぐ事が出来たか。(①) ・就業体験や高大連携事業を					

視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	ーション・情報発信能力の向上)	状況に適応した進路支援をする。(①②) ○就業体験や高大連携事業に参加する生徒を増やすと共に、体験を通してコミュニケーション能力を高めるための支援に取り組む。(②)	や地元企業説明会を実施し、個に応じた進路支援を行う。(①) ・就業体験や大学、専門学校等の説明会に参加させることで早い段階から主体的に進路を考える姿勢を育む。(①②)	通してコミュニケーション能力を高めることができたか。また、このことが実際の進路決定場面で有用であったか。(②)					
4	地域等との協働	①地域連携・協働の推進(CSとしての取組みの推進・異校種間連携事業の推進) ②開かれた学校づくりの推進(ホームページ・ポスター・各種イベントの活用)	○専門高校の特徴を地域に発信することで、本校の特徴を理解してもらう。(①②)	・限定された範囲であっても地域や社会連携事業に関わりを持ち、地域に貢献する。(①) ・魅力あるホームページや学校パンフレットを作成し、広報活動の充実を図る。(①②)	・地域と連携した取組を実践するために何を工夫し具体的にどのような貢献ができたか。(①) ・広報活動を通して地域の中学生やその保護者に本校の魅力が伝わることをできたか。(①②)				
5	学校管理 学校運営	①信頼と期待に応える学校づくりの推進(学校運営の組織的な改善・不祥事防止研修) ②安心して快適な教育環境の整備(教員の働き方改革の推進・施設設備の充実) ③防災教育の推進(DIG・防災訓練による災害対応力の向上)	○職員一人ひとりが教育公務員としての自覚を持ち、学校目標の達成に努め、事故不祥事防止をする。(①) ・PTAや同窓会との連携を視野に県の教育環境整備事業をすすめ、安全で安心な学習環境を作る。(②) ・防災訓練やDIG訓練を継続し、生徒だけでなく、職員の危機管理意識を高める。(③)	・不祥事防止研修や教育活動を推進PT会議を活性化し、課題意識を全職員で共有してその解決に向けて全体で取り組む。(①) ・デジタル化に伴う施設整備を円滑に行い、生徒の学習環境の整備を推進する。(②) ・コロナ禍における地域との連携の在り方や防災訓練の方法を検証しより効果的な防災教育の実施に努める。(③)	・事故不祥事防止を徹底し、新たな教育課題を見出し、全体で解決に向けた取組を実践することができたか。(①) ・教育環境の整備を推進し、生徒が学び易い、職員が働き易いと感じることができたか。(②) ・地域防災という視点から、被災時に備えた実勢的な対応について、生徒も職員も意識を共有することができたか。(③)				